

”日籠りの里には、
明日に伝えたい
大きな宝がある”。



美しい
むららしい
自然

心やすらぐ桃源郷

豊かな田園風景の奥に広がる山々の深い緑、その奥にゆつくりと沈む夕日。誰もが詩人になる、そんな飽くことのない極上の時間が流れる村、大信村。この地に生を受けた芥川賞作家、中山義秀がふるさと大信村を「世界中で唯一の一番なつかしい天地」とよび称したように、心やすらぐ桃源郷がここには広がっています。

現在の村は、旧大屋村と旧信夫村が合併し、昭和30年に誕生しました。面積約81km²、その8割を山林が占め、手つかずの森林が今なお多く残っているまさに自然の宝庫。西方には那須山系の美しい山々が



連なり、隈戸川、外面川の清流が村の中央部を東方へと流れ、881haの農用地に生命を吹き込み、人口5012人（平成14年1月1日現在）の暮らしを生き生きと支えています。そして忘れてはならないのが、この桃源郷の暮らしを今も昔もあたたかく見守り続

ける村の聖山、権太倉山の存在です。春には開山を待ちわびた多くの登山客をそのおおらかな懐に迎え入れ、夏にはヒノキの木漏れ目を浴びながらハイキングを楽しむ子供たちの笑い声が聞こえてきます。そして秋、燃えるよう

な紅葉が那須連山の山々を覆いつくし、ふもとの「聖ヶ岩ふるさとの森」に集まったたぐさんの家族連れが、大自然の恵みを体いっぱい感じていきます。

村では、こうした豊かな自然環境を保全し、緑地空間の拡大を図るため、緑化計画書（グリーンピア・プロジェクト）を策定しました。これにより、森林を活用した交流・レクリエーション施設、地域の憩いの場、公園・緑地の整備が着々と進められています。三方を小高い山々に囲まれた奥南のオアシス大信村は、まさに桃源郷と呼ぶにふさわしい別天地。この宝を次代に向けて守り、伝えていきます。

